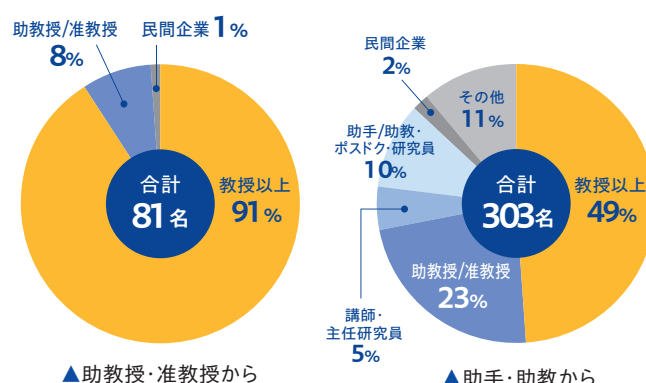


次代の分子科学を担う 研究者の育成に貢献

研究所創設以来50年間で、500名を超える当該分野の中核研究者を輩出し、分子科学研究分野の基盤形成に寄与してきました。人事において広く科学者コミュニティから優秀な人材を求め、人材登用、育成と人材輩出による人材循環の「かなめ」としての機能を提供し、これを全ての大学の共有財産としています。内部昇格を禁止して、研究所における研究領域の固定化を回避し、研究分野の流動化を促すとともに、転出した研究者が在籍時に創出した研究を大学等で更に発展・展開させることに寄与しています。また、分子科学研究所の若手の研究水準の高さは分子科学分野で国内随一で、2023年度JSTの若手育成事業（さがけ）で分子科学研究所は採択率1位となりました。



人事について <https://www.ims.ac.jp/recruit/policy.html>



分子研から転出した助教授・准教授は、9割が教授以上、助手・助教についても、8割近くがキャリアアップを果たし、全国の大学に人材を輩出しています（創立1975年から2023年度まで）。

主な転出先（2023年度時点）

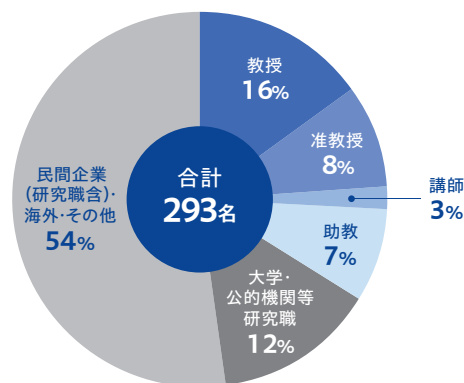
北海道大学（8）、東北大学（12）、東京大学（18）、東京理科大学（10）、名古屋大学（23）、金沢大学（5）、大阪大学（23）、京都大学（20）、広島大学（11）、九州大学（15）、理化学研究所（7）ほか

大学院教育

分子科学研究所は、国立大学法人 総合研究大学院大学における分子科学コースを受け持ち、基盤機関として最先端の研究環境を最大限に活かした大学院教育を実施することで、広い視野と国際的に高い水準の能力を備えた次世代分子科学を担う研究者の育成に取り組んでいます。



大学院教育について <https://www.ims.ac.jp/education/>



出身者進路状況（2025年1月現在）